

事業実施結果概要

事業名：2024 年度「あいちデジタルヘルスプロジェクト」社会実装先行事業委託業務

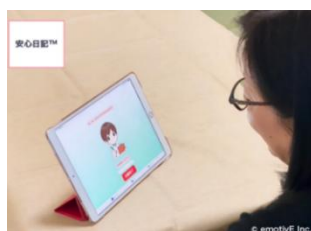
分野：地域居住・生活支援

テーマ：⑦対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的なモニタリング

1. 事業の全体像及び背景

(1) 事業全体の概念図（図1）

- 対話型 AI による日記機能（見守りサービス「安心日記®」の一機能）を用いて、高齢者の健康・生活情報を持続的にモニタリングし、重点的に介入すべき高齢者を効果的にスクリーニングする仕組みを構築する。
- 健康リスクを早期に検出した後には、個人に合った様々なソリューションに繋げ、高齢者の生活を支援する。



- 見守りサービス「安心日記」での自然な対話の中から健康や生活に関する情報を取得
- 取得した情報を蓄積・統合・分析し、健康リスクを早期発見
- 自己管理や地域活動等に繋げ、フレイルや認知症への進行予防



見守りサービス「安心日記」

	Day 1	Day 2	Day 3	...	Day 20	Day 21	Day 22
Q 1	1	1	1		1	0	1
Q 2	0	0	0		0	0	0
Q 3	1	0	0		0	0	0
...							
Q 23	0	0	0		0	0	0
Q 24	1	1	1		1	1	1
Q 25	0	0	0		0	0	0
フレイルスコア	18	17	17		17	16	16

健康・生活機能に関する情報取得
例)フレイル関連因子のモニタリング

図1 事業全体の概念図

(2) 解決すべき課題とその状況

課題：医療や介護の担い手の不足、それに伴う高齢者に対する散発的なスクリーニング

状況：地域単位で行われるスクリーニングの現状は、1年に1回程度の散発的な状況であり、かつ、それらは多大な労力を要している。

(3) 課題を解決することにより期待される効果及び実現する地域像（社会的意義）

期待される効果：地域在住高齢者のフレイルや認知症への進行予防、生活支援者の見守りに関連する業務の負担軽減

実現する地域像：対話型 AI による日記機能を用いて健康・生活機能を持続的にモニタリングし、重点的に介入すべき高齢者を早期に検出できる社会を目指す。

2. 本事業の推進体制

代表：藤田医科大学

協力団体：株式会社 emotivE、豊田通商株式会社、豊田市

3. 本事業で提供するサービスの全体像

本事業では、対話型 AI による日記機能（見守りサービス「安心日記®」の一機能）を用いて、高齢者の健康・生活機能を持続的にモニタリングする。主なサービス内容は以下の4つである。

- 1) 対話型 AI との自然対話から健康や生活に関する情報を取得
- 2) 取得した情報を蓄積・統合・分析し、健康リスクを早期発見
- 3) 個人の状態に合わせて必要なサービス（自己管理、地域活動、行政サービスなど）の提案
- 4) 自治体職員などの支援者、遠方の家族に生活情報を共有

4. 2024 年度の実証内容及び結果

実証1「地域在住高齢者の生活支援の関係者を対象としたヒアリング調査、提供予定サービスに関するアンケート調査」

概要	内容
時期	第一四半期～第三四半期
目的	・地域在住高齢者の生活支援（見守り等）に関する実態の把握 ・提供予定サービスを実際に導入した際に起こり得る事象に関する意見聴取
対象	地域在住高齢者の生活支援の関係者（豊田市内の医療・介護専門職種職、民生委員など）10名
方法	対面形式（一部ハイブリッド形式）でのヒアリング調査及びアンケート調査
評価	リッカート尺度を用いて提供予定サービスの有用性を評価
結果	・アンケート調査「同サービスが業務負担軽減に貢献しそうか」の肯定的な回答の割合（4点中3点以上）は90.0%であった。（図2） ・得られた具体的な意見としては「データの集約・蓄積機能は支援内容の検討に役に立ちそう」「受診歴、内服状況などの周辺情報も合わせて確認できるよい」「高齢者が操作できるか確認が必要」「AI の話し方や言葉使いは高齢者が分かりやすいように改善する必要がある」などがあつた。

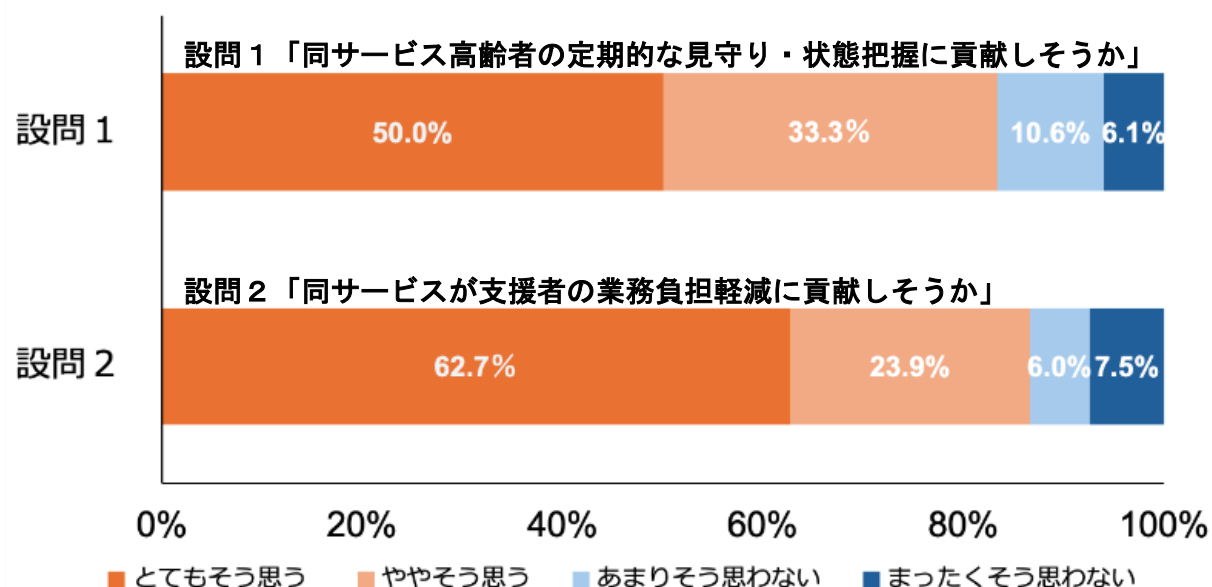


図2 実証1のアンケート結果

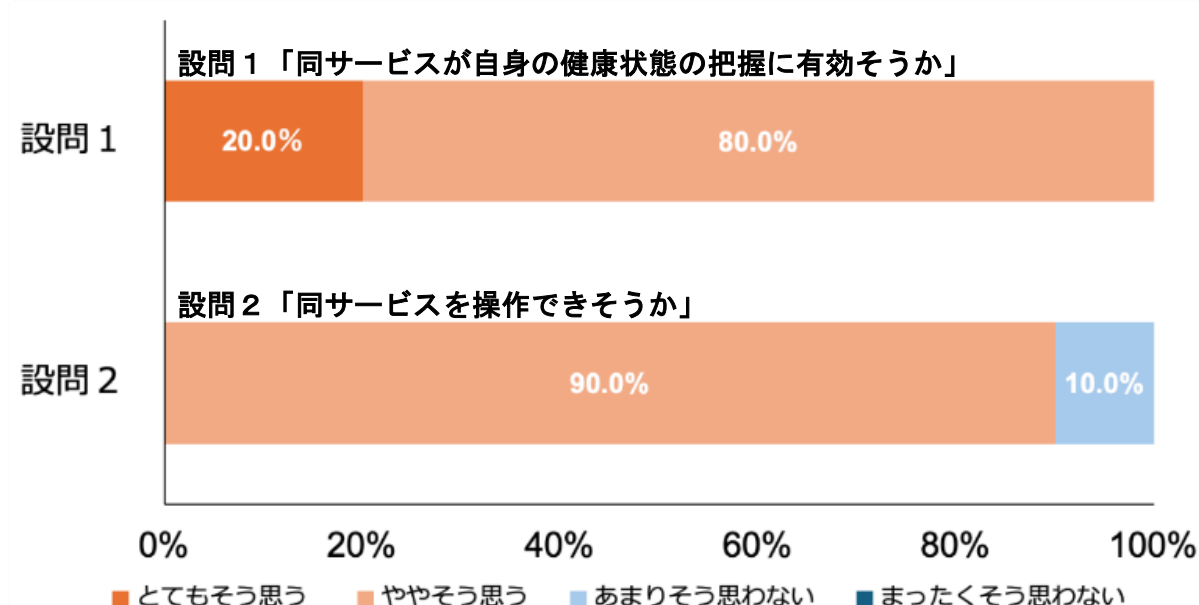
（２）実証２「地域在住高齢者と対象としたヒアリング調査・短期試用（提供予定サービスの受け入れ・操作性評価）」

概要	内容
時期	第四四半期
目的	提供予定サービスの受け入れに関する意見聴取、提供予定サービスの UI、対話機能の評価
対象	豊田市役所に来所された地域在住高齢者 67 名
方法	対面形式で、提供予定サービスの一部機能（自由対話、フレイルチェック機能、健康行動提案機能）を体験後、ヒアリング調査及びアンケート調査（図 3）
評価	リッカート尺度を用いて提供予定サービスの有用性を評価
結果	設問「自身の健康状態の把握に有効そうか」の肯定的な回答の割合（４点中３点以上）は 80.0%、設問「同サービス进行操作できそうか」の肯定的な回答の割合（４点中３点以上）は 83.9%であった。（図 4）得られた具体的な意見としては「毎日の対話は刺激になってよい」「画面のタッチはスーパーなどで慣れているため難しくない」「一人で操作できるか不安」「画面のタッチの反応が悪く、操作しにくい」などがあった。



図 3（左）
実証 2 短期試用の様子
（場所：豊田市役所）

図 4（下）
実証 2 のアンケート結果



5. 2025 年度に向けた課題

- （１）生活支援者向けサービス内容の拡充
- （２）長期検証の実施および事業性検討
- （３）ポータルサイト・データ連携基盤への接続に向けた検討・各種調整